

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和5年1月10日(2023.1.10)

【公開番号】特開2022-133462(P2022-133462A)

【公開日】令和4年9月13日(2022.9.13)

【年通号数】公開公報(特許)2022-169

【出願番号】特願2022-110613(P2022-110613)

【国際特許分類】

C 07 D 498/18(2006.01)

10

A 61 P 35/00(2006.01)

A 61 P 29/00(2006.01)

A 61 P 25/04(2006.01)

A 61 P 25/00(2006.01)

A 61 P 37/06(2006.01)

A 61 K 31/529(2006.01)

C 07 D 498/22(2006.01)

A 61 K 31/4995(2006.01)

A 61 K 31/439(2006.01)

A 61 K 31/53(2006.01)

20

A 61 K 31/504(2006.01)

C 07 D 515/18(2006.01)

C 07 D 513/18(2006.01)

C 07 D 487/18(2006.01)

【F I】

C 07 D 498/18 C S P

A 61 P 35/00

A 61 P 29/00

A 61 P 25/04

30

A 61 P 25/00

A 61 P 37/06

A 61 K 31/529

C 07 D 498/22

A 61 K 31/4995

A 61 K 31/439

A 61 K 31/53

A 61 K 31/504

C 07 D 515/18

C 07 D 513/18

C 07 D 487/18

40

【手続補正書】

【提出日】令和4年12月26日(2022.12.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

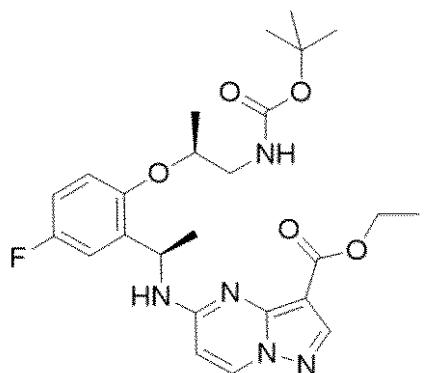
【特許請求の範囲】

【請求項1】

50

下記構造 :

【化 1】



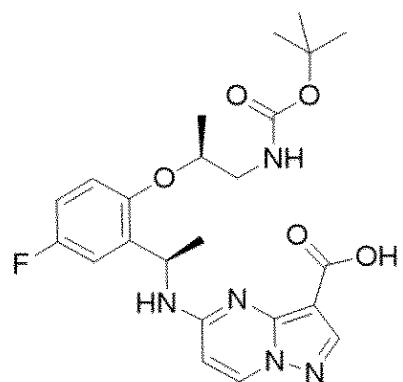
10

で表される化合物。

【請求項 2】

下記構造 :

【化 2】



20

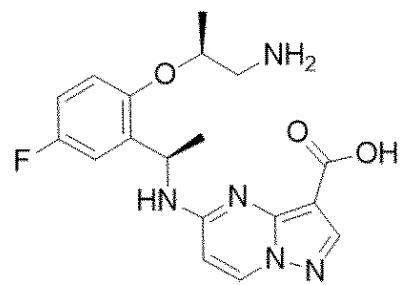
で表される化合物またはその塩。

【請求項 3】

30

下記構造 :

【化 3】



40

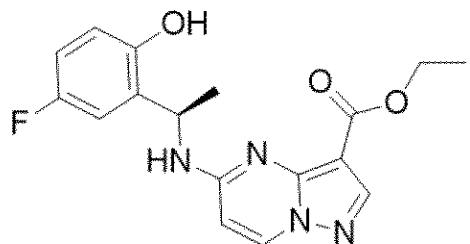
で表される化合物またはその塩。

【請求項 4】

下記構造 :

50

【化4】



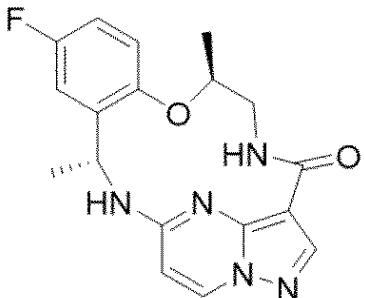
で表される化合物またはその塩。

10

【請求項5】

式C:

【化5】

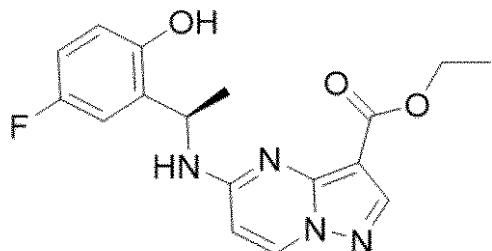


20

の化合物を製造する方法であって、

(a) 式C-1:

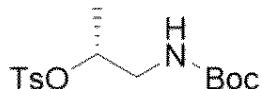
【化6】



30

の化合物、下記構造:

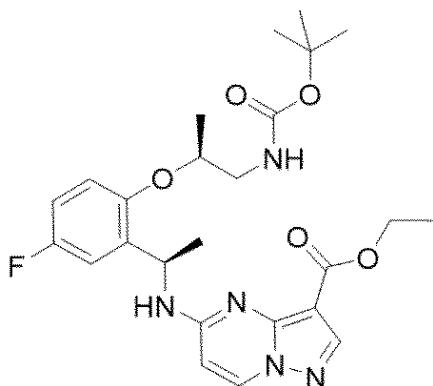
【化7】



で表される化合物、第一の塩基および第一の溶媒を含む第一の溶液を加熱し、式C-2: 40

50

【化 8】

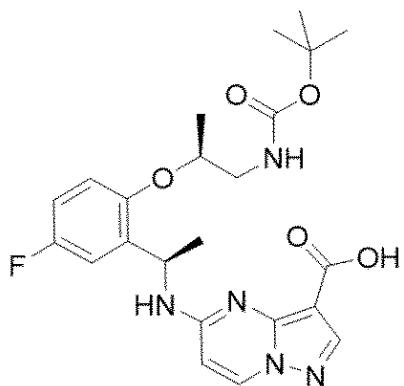


10

の化合物を形成させること；

(b) 式C-2の化合物、第二の塩基および第二の溶媒を含む第二の溶液を加熱し、式C-3：

【化 9】

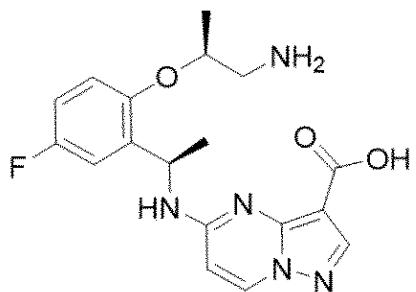


20

の化合物を形成させること；

(c) 式C-3の化合物、酸および第三の溶媒を含む第三の溶液を調製し、式C-4：

【化 10】



30

の化合物を形成させること；および

(d) 式C-4の化合物、カップリング剤および第四の溶媒を含む第四の溶液を調製し、これにより式Cの化合物を製造すること、
を含む、方法。

【請求項6】

第一の塩基が炭酸カリウムであり、第一の溶媒がDMFである、請求項5に記載の方法。
。

【請求項7】

第一の溶液を80℃に加熱することを含む、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

第二の塩基が水酸化リチウム水溶液であり、第二の溶媒がメタノールおよびTHFであ

40

50

る、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】

第二の溶液を 70 ℃ に加熱することを含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

酸が塩酸であり、第三の溶液がジクロロメタンおよび 1,4-ジオキサンである、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 11】

カップリング剤がジフェニルホスフィン酸ペントフルオロフェニルであり、第四の溶液が DMF である、請求項 5 に記載の方法。

10

20

30

40

50